

【評価区分】Ⅳ：年度計画を達成している（達成率100％）Ⅲ：年度計画を概ね達成している（達成率80％以上）Ⅱ：年度計画を十分には達成できていない（達成率60％程度以上）Ⅰ：年度計画を達成できていない（達成率60％程度未満）

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
3. 教育研究組織 【計画6】㊦(大学院医療保健学研究科) 大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域を令和5年度に開講するための準備を進めるとともに、開講後適切に運営する。 「計画達成のための方策」 大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域を令和5年度に開講するため、関係機関との調整等を着実に実施し、開講準備を着実に進めるとともに、開講後適切に運営する。 「評価指標」 ・大学院修士課程プライマリケア看護学領域の開講準備・運営状況 (令和7・8年度) ・入学者数、特定行為管理委員会開催数、修了生の人数、日本NP教育大学院協議会におけるNP資格認定試験合格者の人数、修了後の就業先と職務の状況、修了後の学会や研究会等の発表件数、在学生と修了生との交流及び研修会の開催状況	Ⅳ	・㊦から㊩について、計画通り全て完了した。 ・講義・演習では、学外講師77名（内訳：医師58名、看護師16名、その他専門家3名）学内講師8名の協力を得ることができ、計画通り、2023年4月に開講できた。 ・開講後は、カリキュラムの進捗管理、放送大学（特定行為共通科目）学習の進捗および評価管理、科目試験の管理により、設定期間内にすべての院生が履修合格ができた。 ・実習施設、実習指導医、実習指導NP（病院・施設・在宅）との打ち合わせを実施し、実習施設4施設、NP9名の協力を得ることができ、全員履修合格となった。また、令和6年に向けて実習病院14施設の確保ができ、厚生局修正申請を提出予定である。 ・演習室の確保と修繕を完了し、令和6年の授業に向けて演習（OSCE）物品・シミュレータの搬入を行う予定である。 ・特定行為管理委員会は2023年10月に第1回の会議を実施した。 ・令和6年度学生募集と入試により、計16名が入学した。 ・予定8名を超える入学生にともない、令和6年度に教員（診療看護師）1名を学部兼任担当として採用できた。	【年度計画6】 1. 大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域を開講し適切に運用する。	Ⅳ	・大学院医療保健学研究科プライマリケア看護学領域では第1期生は令和7年3月に11名全員が最短の2年間で修了することができた。 ・令和6年4月には第2期生16名が入学し、令和7年4月には12名の入学が決定し、令和7年度はM1生12名、M2生16名が修士課程にて学ぶことになる。8名程度の定員確保は3年連続で達成できている。 ・院生の特定行為研修に関する履修状況と修了を審議する「特定行為研修管理委員会」は外部委員4名を含めた8名の構成員で4月、12月と3月と3回開催され、カリキュラム内容や講師の選定、実習施設の選定、成績管理および修了判定が計画通りに行われた。				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画7】（東が丘看護学部・看護学研究科） 独立行政法人国立病院機構との連携協力により東が丘看護学部及び大学院看護学研究科修士課程・博士課程において設置の趣旨を十分活かし教育研究を着実に履行するとともに、国立病院機構との連携協力を一層強化し教育研究体制の整備・充実を図る。 「計画達成のための方策」 1. 令和5年度に看護学研究科に「教育・研究者プログラム」と「看護管理者プログラム」を設置する。 1. 令和5年度に看護学研究科に認定看護管理者養成コース、放射線看護専門看護師コースを設置する。 「評価指標」 ・「教育・研究者プログラム」と「看護管理者プログラム」の設置状況 ・認定看護管理者養成コース、放射線看護専門看護師コースの設置状況 2. 放射線看護研修センターで行っているがん放射線療法看護認定看護師養成課程は、発展的に終了し、上記看護学研究科における大学院教育に注力する。 「評価指標」 ・放射線看護研修センターの円滑な終了手続き状況	IV	・看護学研究科に「教育・研究者プログラム」と「看護管理者プログラム」を設置するとともに、大学院修士課程定員を40名程度に増員した。そして学則変更・文科省への届出等諸手続きを完了した。 ・令和6年度入学生は博士課程を含めて44名と定員を確保した。 ・看護学研究科「高度実践助産コース」「高度実践公衆衛生看護コース」に対し学部から学部長の特別推薦制度を設けた。	【年度計画7】 1. 継続的運営を行う。 2. 定員確保 「評価指標」 ・新定員での安定的運営 新体制での定員確保状況	IV	1. 高度実践看護、助産、公衆衛生ならびに看護科学コース（看護教育・研究者プログラムおよび看護管理者養成プログラム）の定員を満たしている。100% 令和7年3月には第1期生3名は最短の2年間で修了し、学位（看護学修士）を取得された。 令和7年4月からはさらに新規に看護管理者プログラムは5名が入学の予定であり、勉学・研究に励んでいる。令和7年度にはM1生5名プラスM2生2名の予定である。100% 看護学研究科「高度実践助産コース」「高度実践公衆衛生看護コース」に対し、学部から学部長の特別推薦制度を設け、令和7年度入学生として3名を確保した。 2. 高度実践看護コース、看護科学コースで各々、個人的にやむをえない理由で1年次末に退学者がでた。				
		2. —			2. —				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画8】（千葉看護学部・千葉看護学研究科） 独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）との連携協力により、千葉看護学部において設置の趣旨を十分活かし教育研究を着実に履行するとともに、JCHOとの連携協力を一層強化し教育研究体制の整備・充実を図る。 「計画達成のための方策」 1. 全学様式による教員自己評価を継続する。 「評価指標」 ・全学様式による教員自己評価の継続(1回/年) 2. JCHOとの人事交流を継続する。 「評価指標」 ・JCHOとの人事交流の継続(助手1人/年) 3. JCHOとの共同活動に関するグランドデザインをもとに、人材育成と活用を進め、点検評価を行い継続的な発展を図るとともに、成果を公開する。 「評価指標」 ・JCHOとの共同活動状況（運営協議会1回/年、未来を語る検討会4回/年、JCHO学会発表1回/年） 4. カリキュラム改定準備を進める。 「評価指標」 ・カリキュラム改定の準備状況・DPと一貫したAPを実現するための検討状況	IV <								

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画9】㊦(和歌山看護学部・看護学研究科・和歌山看護実践研究センター) 生涯を通じて自己研鑽するための支援体制をつくり、生涯にわたって成長し続ける医療人の育成を図る。 「計画達成のための方策」 日赤和歌山医療センターとの協議のもと、ニーズの高いものから研修を計画・実施を行い、更に和歌山県下のニーズに対応する。 「評価指標」 ・研修の実施状況、研修参加者からのニーズの把握状況	Ⅲ	・学習会「臨床実践を科学的に意味づける-文献検索の意義と方法を知ろう-」を4回にわたって実施した。参加者に本研究科についての案内及び大学院生体験談を話して頂いた。 ・大学院進学については連携病院には複数回説明会を開催し、実習施設への案内、及び和歌山県看護協会長の協力により県下の医療施設看護管理者に大学院進学の説明と学ぶことを進めていただいた。学部生向けの大学院進学についても説明も行い、興味のある学生の声も聴いている。 ・学部卒業生を対象に日赤和歌山医療センターとの連携により、院内ラボにおいて就職前の看護技術研修（基礎トレーニング）を行った。今年度は和歌山県下の新就職者を対象とする前段階として、まずは県下の施設管理者における見学希望の周知を行い、施設管理者から複数名の見学希望があった。研修参加者の満足度は高かった。 ・秋季と春季の2回の入学試験を実施したが、大学院入学生数は8名（日赤からは1名）になり、定員を充足できなかった。	【年度計画9】	Ⅱ	日赤和歌山医療センターと本学部のニーズを優先した研修計画を実施する。 県下のニーズに応じた研究について検討する。 ・大学院和歌山看護学研究科での学びの意味を発信し入学者の獲得を図る。 「評価指標」 ・研修計画 年2回以上 ・大学院入学者 定員（12名） 1. 本年度卒業生と日赤病院のニーズ；日本赤十字社和歌山医療センター就職者を対象に就職前講習会を実施し、30名の参加があった。今年度の内容は自信をもって行動できるよう講義・演習・交流で構成した。講義は「主体的な取り組み」「対人関係構築と効果的なストレスマネジメント」で、演習内容はバイタルサイン測定、寝衣交換・清拭、車いす移送・移乗、シーツ交換とした。交流内容は、2年目看護師の体験談および質疑応答とした。これらの内容で就職前講習会を実施し、参加者に良い効果が得られるとともに日赤職員との関係形成の場ともなった。 2. 県下に向けてのニーズ調査は次年度以降とし、まず今年度は連携病院である日本赤十字社和歌山医療センターの看護職の要望等を把握し、対象にとって効果的な業務や今後の研究につながるPC研修を実施した。受講は11名であった。 3. 秋季と春季3回の入学試験を実施したが、大学院入学生数は5名（日赤からは1名）になり、定員を充足できなかった。 今後、県内医療従事者に和歌山看護学研究科の特色を明示したチラシ、パンフレットを作成し、周知啓発を行い入学生の確保を図る。 診療看護師養成コースの検討も行っていく。				